

教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課 〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL (354)-8283 (代) FAX (359)-0280
ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



教育支援課
マスクットキャラクター
しえん君



授業の見方 ～研修と研究～

学校教育課 石黒友博



ある時、一人の指導主事と話をしている、授業の見方の話になった。授業をどう見たらいいのかわからなくなるときがあると言う。なるほど授業の見方は人それぞれで、これといった決まりがあるわけではなく、正しい見方というのがあるわけではない。

自分のつたない経験から次のような話をした。

授業を見るときは「教師の考え」「教師が発する言葉」「子どもの動き」が一致しているかどうかをまず見る。

「教師の考え」とは、指導案があれば、そこに書かれてあることだ。具体的に、授業の目標であり、その目標達成のために設計した学習活動である。しかし実際の授業では、教師の考えが十分練られていないことが多い。考えを正確に反映した指導案になっていなかったり、深く考えずにどこかの文章を持つてくることさえあったりする。

「教師が発する言葉」とは指示や発問である。これについては、先の「教師の考え」の曖昧さから、また適切な言葉を選べていないために、意図する

学習活動が展開できるように指示や発問ができていないことが意外に多い。

以上の2点は、教材研究の不足がその原因のほとんどであるが、授業(単元)で取り扱おうとする範囲が明確でない場合も多い。

「子どもの動き」とは、その言葉通りであるが、子どもが頭の中で考えていることや、できないけれどもやろうとしていることも含んだ活動における子どもの姿のすべてを指す。そして、考えて発せられた教師の言葉を聞いて動く子どもの姿が、考えとも、発せられた言葉とも違っていることがよくある。子どもは、教師にほめられようと思っているから、教師の言葉そのものだけでなく、自分の考える教師の求めているだろうことに基づいて動くからである。

実際、「教師の考え」「教師の言葉」「子どもの動き」が一致することはかなり難しいのである。以上の三つがずれることなく一致

することが授業の最低条件であると思ってきた。いや、一致させるように

努力をしてきたというのが正確か。授業にまず大切なことは、教師が十分な教材研究を行って目標の設定と学習活動の設計を行うことである。それに基づいて適切な指示や発問をし、子どもが学習活動を行うということである。また、この三つが一致していないと、いわゆる授業の研究は成立しない。仮説を立てて実証しようにも、行った授業がうまくいかなかった原因が(またはうまくいった原因が)仮説やそれに基づいた方法にあることが曖昧になるからである。

「研修」と「研究」の違いは、ずいぶん前からいくつかの機会に発言したように思う。ある辞書に、「研修：必要な知識や技能を身につけるため勉強や実習をすること」「研究：ことごとらについて調べ、事実を明らかにしたり理論を打ち立てること」とある。この解釈が妥当かどうかは異論もあるだろうが、このように考えることは授業や授業研究を考える上で大いに参考になる。

OJTのススメ



ベテラン教師の「教師力」を若手教師に伝えよう

授業研究は進んでいますか？ 良い授業にたくさん出会ったら、今度は自分の授業に生かしたいですね。ところが、そのまま真似てもなかなかうまくはいかないものです。良い授業を成立させるためには、授業技術に加え、プロ教師の教師力「ちょっとした工夫と配慮」が大切。

プロ教師の教師力って…？ そんな時こそベテラン先生の出番です。今まで培ってきた技術を、若手先生にぜひ伝えてください！OJTで先生同士も「学び合い」ですね！



教師力

教師の表情・態度・話し方

- 1 楽しそうに話す力
大きな声で間をとりゆっくりと教えることが楽しそうに子どもの反応を見ながら
- 2 内容を整理して話す力
- 3 反応を受け止めながら話す力

教師力

学習する環境づくり

- 4 学習ルールを守らせる力
学習ルールはまず教師の態度から基本的なルールは繰り返し教える
- 5 支持的な空気をつくる力
安心して学べる場所・支持的な言葉かけ
- 6 子どもと信頼関係をつくる力
先生は…
自分のことを分かってくれる
きちんと指導してくれる
授業をていねいに準備してくれる
一人ひとりの学習を支援してくれる
- 7 教室環境をととのえる力
学級目標・学習のルールの掲示
子どもの作品・成果の掲示

教師力

「ほめる」「叱る」技術

- 8 「ほめる」ことができる力
効果的にほめる
がんばったことを、ほめる
機会を逃さない
次にどうしたら良いかを促す
周りを育てる視点
 - 9 「叱る」ことができる力
怒ることと叱ることのちがいは
怒る…感情に任せて、相手にぶつける
叱る…相手のことを考えて、理性的に行う
児童生徒自身が納得できる叱り方
(叱るときの5つの心がまえ)
① そのときに叱る
② 端的にその行為について叱る
③ 理由を必ず聞く
④ 後でそのことについて触れない
⑤ その日の帰りは、笑顔で帰す
- 叱られた内容について
努力していたら、ほめよう
- 10 叱った後、つながりを作る力
安心感・理解・受け入れられている感じ
叱られる理由の納得
見通しや解決方法の提示
教師への信頼感



ICT活用で授業を変える

出前研修だよ!



今年のキャッチフレーズは「出かける支援課」。今年も市内全小中学校を対象に、ICT出前研修平成22年度後期編を展開中です。今回のテーマは「授業の中でのICT活用」。3コースに分かれて研修を深めます。「ICTを使う」から「ICTで授業を変える」にステップアップした研修で、授業の活性化をめざしましょう。

書画カメラコース

書画カメラは実際の動作を見せるのに有効です。ガスバーナーのしくみを書画カメラで映し、黒板に直接投影しました。チョークで書き込むこともできます。



dbook作成コース

手持ちの資料をデジタル教材（dbook）にします。地図資料をスキャナで取り込み、簡単にdbookを作りました。作成した教材を拡大したり書き込んだりして、模擬授業します。

フラッシュ型教材作成コース

パワーポイントでフラッシュカードを作成します。1枚作れば、後は文字や数字を直すだけで何枚でも作れます。活用のコツはシンプルなカードでテンポよく！同じカードでも発問を変えることでステップアップできます。



教育支援課 特別支援教育・相談グループから

U-8(アンダーエイト) 発達障害等早期支援事業

幼児ことばの教室

ごっこ遊びやゲームなど、楽しい活動の中で、ことばをやりとりする力、正しい発音で話す力、思いをことばで相手に伝える力などを身につけます。

プロセス1

唇・舌・息の使い方を練習して、正しい発音につなげます。

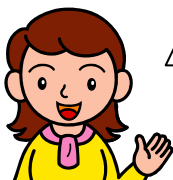


プロセス2

絵カードや写真などを用いて、見たり、聞いたり、考えたりする活動の中で、ことばを理解する力や聞く力を育てます。

プロセス3

遊びの中で、共感することばをたくさん使い、ことばを使ったコミュニケーションの楽しさを味わわせます。



ことばは、楽しさや面白さの中で育むことが大切です。
遊びの中で、ことばを覚えたり、やりとりする楽しさを味わったりすることが、ことばへの自信の第一歩になります。

～幼児ことばの教室～

対象: 4・5歳児

日時: 週1回50分(全10回)

月曜日～木曜日 10:00～16:00

場所: 総合会館6F 個別学習室1

まなびの教室

学校と連携しながら、その子の苦手さや特性に応じた個別の支援を行い、聞く・読む・話す・書く・計算するなどの学習への困り感を減らします。

プロセス1

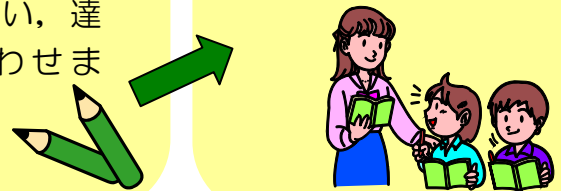
学習に集中できる力(姿勢の保持や鉛筆の正しい持ち方等)をつけるために、体のバランスを整える全身運動や、手先の細かな動きを高める微細運動などを行います。目標をもって取り組み、集中力を高めます。

プロセス2

個の苦手さに応じた学習(聞く・読む・話す・書く・計算するなど)をスモールステップで行い、達成感を味わわせます。

プロセス3

その日に学習したことを指導者と一緒に振り返り、評価することで、次回への意欲を高めます。



満足感・達成感がまなびへの意欲につながります。
結果だけを評価するのではなく、頑張ろうとしている姿や頑張っている姿も見逃さず、褒めて・認めて・励ますことで、自信を高めていきます。

～まなびの教室～

対象: 小学校1・2年生

日時: 週1回50分(全8回)

月・火・木・金曜日 11:00～16:00

場所: 総合会館6F 個別学習室2